



爽やかな季節。お友達や家族を誘って楽しい＆おいしい時間を過ごしませんか。

大人の「お出かけは「テーマ」を決めて

伝統ある文化の発祥の地、宝塚。大人の女性を魅了する非日常の雰囲気があり、その歴史に触れながら過ごす一日は、きつと特別なものになるはず。読者モデルの淑子さんと栄美華さんに、宝塚大劇場と宝塚ホテルの魅力体験していただきました。

華やかな宝塚歌劇の世界を満喫

103年の歴史を誇る宝塚歌劇。きらびやかなステージは、女性なら誰もがうっとりとするような夢の世界で、美しい歌声や華麗なダンス、豪華絢爛な衣装など、ステージの隅から隅まで目が離せない。

壮大なエントランスには、ショーのフィナー

レで出てくるような大階段が。一段二段を登りながら、「振り返るとまるでスターになった気分。テンションが上がりますね」と淑子さん。

宝塚歌劇には、花・月・雪・星・宙(そら)の5つの組があり、それぞれに魅力と軌跡がある。観劇後は、劇場に併設されているオフィシャル

ショップ「キャトルレーヴ」で、各組のトップスターたちがプロデュースしたグッズや、スターたちのプロマイドなどの観劇記念グッズを買うのも楽しい。また「宝塚歌劇の殿堂」も見応えたっぷりでおすすめだ。

最後にお二人は、華やかなスターの衣裳に身を包み、記念撮影ができて「オスカルに、淑子さんはマリー・アントワネットに化身。背景は「宮殿」で。毎月1日にメイクコースの次月の撮影予約がスタートするが、あつという間に埋まるそう。メイクなしのショートコースは7,000円～、要予約のメイクコースは17,000円～(予約はホームページから)。



6月には花組公演「古代ロマン 邪馬台国の風」が上演される(チケットの一般販売は4月29日から)。



103年の歴史を「宝塚歌劇の殿堂」

2014年に100周年を記念して「宝塚歌劇の殿堂」が劇場内にオープン。宝塚歌劇に大きな貢献をした卒業生やスタッフなどが並ぶ。「実際に使っていた小道具もあって貴重。見応えがありますね」と淑子さん。時間を忘れてじっくり眺める方も多そう。

入館料 / 500円
営 / 10時～17時(2回公演時は9時半～)
定休日 / 宝塚大劇場の休演日



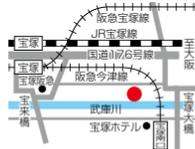
時代を彩ったタカラジェンヌたち。現在も様々な方面で活躍されている人も多い。



スターたちと同じように羽やシャンシャンを持って記念撮影ができるコーナーも。

宝塚歌劇 宝塚大劇場・宝塚パウホール

宝塚市茶町1-1-57
阪急宝塚駅下車徒歩8分
中央・西駐車場あり(1日1000円)
上演スケジュールは
オフィシャルホームページを参照
☎0570-00-5100
<https://kageki.hankyu.co.jp>



ランチバイキングは平日大人2,600円、土日祝大人3,300円ほか。シニア、こども、幼児料金あり。詳細は下記HP参照または問合せを。



宝塚大劇場オフィシャルホテル
宝塚ホテル
宝塚市梅野町1-46
(阪急「宝塚南口」駅前)
〈ザ・ガーデン〉☎0797-85-2614
〈ルネサンス〉☎0797-87-1151(代表)
<https://www.hankyu-hotel.com/hotel/takarazukah/>



クラシカルホテルで優雅なひと時を

大劇場から歩いて10分ほどのところに、宝塚ホテルがある。大正15年に開業し、本館は今も当時の面影を思わせるクラシカルな佇まいが残る。ゆったりと歩きながら「古き良き雰囲気」が落ち着きますね」と淑子さん。

観劇の前は、庭に面した「ザ・ガーデン」でランチバイキングを愉しむのがおすすめ。鮮やかな四季の花を眺めながら、音楽が流れる静かな空間でシェフが手がける料理を堪能。中央にある「ライブキッチン」では、フオアグラ丼やローストビーフ(ランチ限定)などのメイン料理を目の前で仕上げられてきたてを何度でも味わえる。「野菜が豊富で、お料理もどれもおいしくて大満足」と栄美華さん。観劇後なら、ティールラウンジ「ルネサンス」でアフタヌーンティー(2名で3000円)とともに、舞台の余韻に浸りながら、お喋りに花を咲かせてみては。

